



ポピュリズムと格差拡大

(続き)

- 2 現文 急須
ムズカシイ…
- 3 地理 農業
堀田くんのスピーチがすごかった
- 4 英表 関係副詞
LL教室が寒かった
- 5 日本史 平将門の乱
本日はちょうど10行進しました
- 6 コミュ英 ディスカッション
色々とすごかった
- 7 古典 第二・第三段落の助動詞発見
前回よりもよくできました

○段々と寒くなってきて、朝、布団からなかなか抜け出せなくなってきたので、なるべく遅刻しないようにしたい…。

*

先週の話題といえば、やはり「トランプ氏」だろう。だって、日本での報道を見ている限り、絶対当選しそうな人物が当選したのだからね。

翌日のニュースなどを見ると、各地で反対運動が起こったり、カリフォルニア州では独立を目指すサイトまで立ち上がっているというのだから、かなりな状況である。お笑い芸人のパッケンも、「アメリカ人をやめたくなった」とインタビューで答えていた。

しかし、それがアメリカの現実である。私などは、あれだけの人物に敗れるヒラリーって、どんだけ？みたいな感じを受ける。本人は「ガラスの天井」と言っているようだが、ガラスの天井ではなくて、本人の資質の問題が一番大きいに違いない。

しかし、それ以上に、この8年間のオバマ

政権に対する評価がトランプ氏の登場に結びついたことを、オバマ大統領は率直に認めるべきだと思う(その意味で、オバマ後継と見なされたヒラリーは損だったろう)。議会がねじれ状態で、政策が実現できなかった部分もあるだろうが、例えばノーベル平和賞に値することは何一つなしていない(目立つのは、キューバとか広島とか、国外でのパフォーマンスのみ…)。「ラストベルト」という言葉も初めて知ったが、そういった状況を招いた責任は重いと言わざるをえないだろう。

*

「隠れトランプ」、つまり、過激な発言への同調を知られたくないが故に公には支持を表明しないながらも、実際には彼の発言に溜飲を下げて投票した人が多いのだそう。「本音と建前」といった感じだろうか。

その根底にあるのは、「ポピュリズム(一般大衆の利益や権利、願望、不安や恐れを利用して、大衆の支持のもとに既存のエリート主義である体制側や知識人などと対決しようとする政治思想)」と、グローバリズムによる格差拡大=中間層の空洞化である。

そして、これは何もアメリカだけのことではない。日本はかつて「一億総中流」と言われる「意識」を共有していた。しかし、今や格差が浸透し、自らを中流と意識できない人々が大きなパーセンテージを占めつつある。

孟子には「恒産無くして恒心無し」とある。生活が安定しなければ、道義心を持つことはできないということである。経済優位のこの世の中で、politically correct であることはいかに困難であるかということでもある。